

平成20年4月30日

各 位

会社名 松 尾 電 機 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長執行役員 清水 巧
(コード番号: 6969 大証第2部)
問合せ先 執行役員総務・経理部門長 竹野井 薫
(TEL: (06) 6332-0871)

平成20年3月期業績予想の修正、及び中期経営計画（連結）策定に関するお知らせ

平成20年4月28日開催の取締役会に於いて、固定資産の減損損失、たな卸資産に係る評価損等の特別損失の計上を決定しました。この結果を踏まえ平成20年2月8日に発表した業績予想を下記のとおり修正します。

また、平成21年3月期を起点とする3ヵ年の中期経営計画を策定しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 通期業績予想の修正

1) 連結業績予想の修正

(単位: 百万円, %)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,500	△ 420	△ 430	△ 520
今回修正予想 (B)	8,455	△ 429	△ 434	△ 1,696
増 減 額 (B-A)	△ 45	△ 9	△ 4	△ 1,176
増 減 率 (%)	△ 0.5	—	—	—
前年同期実績 (平成19年3月期)	8,110	△ 216	△ 231	115

2) 単独業績予想の修正

(単位: 百万円, %)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,450	△ 520	△ 530	△ 680
今回修正予想 (B)	8,412	△ 519	△ 516	△ 1,841
増 減 額 (B-A)	△ 38	1	14	△ 1,161
増 減 率 (%)	△ 0.4	—	—	—
前年同期実績 (平成19年3月期)	8,049	△ 197	△ 206	41

2. 修正理由

【連結】

当社グループはタンタルコンデンサ、回路保護部品の製造・販売を主たる事業としており、当期連結売上高に占める割合は前者が約81%、後者が約14%です。

当期における営業損失は約429百万円、経常損失は約434百万円と、ほぼ平成20年2月8日の発表値となる見込みです。しかし、採算の低迷が続いている福知山工場の固定資産につき、減損損失約973百万円、販売・使用の可能性の低い、また販売価格の下落したたな卸資産につき評価損約138百万円、時価の著しく低下した投資有価証券につき減損処理による評価損約101百万円を計上するため、誠に遺憾ながら当期純損失は1,696百万円と大幅な最終赤字となる見込みです。

【単体】

【連結】と同様、当期における営業損失は約519百万円、経常損失は約516百万円と、ほぼ平成20年2月8日の発表値となる見込みですが、上記【連結】に記載した理由に加え、北米市場で当社の製品を販売している連結子会社、マツオ・エレクトロニクス・オブ・アメリカの業績が予定した通り回復しないため、当該子会社株式につき減損処理による評価損約86百万円を計上する見込みです。このため、当期純損失は、1,841百万円と大幅な最終赤字となる見込みです。

なお、発生が見込まれる「特別損失」については、「固定資産の減損損失等、特別損失の発生についてのお知らせ」を同時に公表しています。

今後の見込みにつきましては、以下に記載しています「中期経営計画」に基づき、営業損益の黒字化を目指す所存です。

(注)

- ①上記業績予想につきましては、現時点で入手利用可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、様々な不確定要因が内在しています。今後当社グループを取り巻く市場の経済情勢等により実際の業績は、上記記載の業績予想数値と異なる可能性があります。
- ②平成20年3月期決算短信は、平成20年5月21日に公表を予定しています。

3. 中期経営計画の策定

1) 中期経営計画の背景

当社は平成19年3月以降、2期連続して営業損失を計上する見込みです。平成20年3月期には、財務内容の健全化のため、長期滞留在庫、売値が原価に比べて下落している在庫につき処分の実施やたな卸資産評価損の計上を行います。さらに、当社のチップタンタルコンデンサを製造している福知山工場につき「減損の兆候」が認められるため、同工場の固定資産につき減損損失を計上します。

このような業績不振を招来した重要な要因は以下のとおりです。

①当社の主力製品であるタンタルコンデンサは、誘電体（電荷を蓄える部分）の陰極物質によりマンガン（Mn）系、有機系に分かれます。近年の需要動向としては、セラミックコンデンサ等他の種類のコンデンサとの競合が多いMn系市場の拡大は緩慢であり、他方有機系市場は拡大基調にあります。Mn系コンデンサについては、各社とも十分な供給能力を持ち、販売競争が激化しています。特に、近年小型の低価格帯の製品へ需要がシフトして平均販売価格が下落し、当社としても品質を維持しつつコストダウンに努めました但採算を改善することは出来ませんでした。

②このような市場環境の下、当社はMn系コンデンサのシェア拡大のため、静電容量に係る体積効率の優れた（一定の体積で得られる静電容量が大きい）「下面電極チップタンタルコンデンサ」を開発して市場に投入、出荷数も順調に増加しましたが、歩留りが計画値に達せず、収益に貢献することが出来ませんでした。

③また、高速デジタル回路等に適した低ESRの有機系コンデンサについては、当社も既に開発済みですが、開発が遅延したことにより先発メーカーの後塵を拝することとなり、販売に苦戦しています。

以上の如く、当社を取り巻くタンタルコンデンサの経営環境の変化へ迅速に対応するための営業面・技術面で、の長期に亘る企業体質の弱体化が現在の状況を招いたと認識し、この状況を打開するため、以下の各種施策を実施し、平成21年3月期より黒字体質への転換を図ります。

2) 中期経営計画の基本方針

今まで以上に、市場の視点、お客様の視点に立ち、持続可能な事業成長の実現に向けて革新を実行します。革新の第一歩は、製造会社として基本的な部分を確実に向上し、不足している部分を確実に改善する事で、“新たな成長”のための基盤を確立することにあります。そのため以下のことを中期経営計画の基本方針として計画し実行します。

(1) 持続可能な利益を達成するために以下を重点方針とします。

- 売上70%以上を占めるタンタルコンデンサにおいて利益を出す基盤を確立する。
- 回路保護部品の売上比率を大幅に増加させることにより利益の伸張を図る。
- 新製品の売上比率を大幅に増加させることにより利益の伸張を図る。

(2) 営業力を強化し、活発な営業活動を展開するため以下を重点方針とします。

- 市場・顧客の分析を強化し、戦略的に考動する。
- 市場の多くは海外にあるため、海外売上比率を大幅に増加させる。
- 効率的なセールスネットワークを確立し、販路を拡大する。

(3) 市場に受け入れられる商品力と高品質・先端技術を実現するため、以下を重点方針とします。

- 市場に受け入れられる“品質・性能・価格・納期”を実現する。
- 開発から量産化まで、市場にあったスピードで進められる開発体制を強化し、実行する。
- 品質保証システムをより確実に実行し、顧客に評価される高い品質レベルを達成する。
- 性能・小型化・薄型化において市場で評価される先端技術製品を実現する。
- 継続的なコストダウンを可能とするムダのない効率的な生産体制を確立する。

(4) 階層別教育を実行し、人材開発・育成を強化していきます。

3) 目標を達成するための施策

(1) 営業活動

- 当社が得意としている高信頼性、高品質が要求されるカーエレクトロニクス、情報インフラなどの産業機

器分野、および小型、薄型、高機能が要求される携帯機器分野の中核市場では、顧客を確実にサポートできる体制でセールス活動を行います。

■さらなる成長が予想されるホームエレクトロニクス、医療機器、ユニット機器分野においては重点的なセールス活動により販売拡大を目指します。

■先端技術商品の営業活動をさらに活性化させ市場を拡大します。

- ・コンデンサでは、下面電極型タンタルコンデンサ、導電性高分子コンデンサ、完全鉛フリーを実現したヒューズ内蔵タンタルコンデンサ

- ・回路保護部品では、大電流ヒューズ、超小型ヒューズ、サージアブソーバ

■国内外の主要地域で、代理店によるセールスネットワークを再構築し、市場への振興活動を活発に行います。

(2) 製品開発

品質、性能、小型化、薄型化において世界的にみてトップレベルの製品を実現するため以下を重点とし実行します。

■製品開発ロードマップを確実に実現し、世界的に見てトップレベルの製品でかつ世の中のニーズにあった製品をタイムリーに開発していきます。

■製品開発から量産に至る開発過程を確実に実行することで、顧客の要求にあった性能の製品を、期日どおりに良い品質で量産化していきます。

■フィルムコンデンサでは、ますます電子化される自動車あるいはハイブリッド自動車などからの需要の拡大が予想されるカスタム品を重点的に開発します。

(3) 品質保証

製品開発から量産に至る開発過程を含む品質保証システムを充実させ、有効に運用することで、高い品質を保証していきます。特に新製品については量産初期段階から高品質の製品を目標通りの収率で生産できる活動を重点とします。

■製品開発から量産に至る開発過程をより充実することで、スムーズでかつタイムリーな量産立ち上げを行います。

■開発過程において、プロジェクトチームによる活動をより有効に活用して、量産段階のスムーズな立ち上げを行います。

■量産品の品質向上と収率向上についてもプロジェクトチームを構成し、継続的な改善活動を活発に行います。

■本社品質保証部による内部品質監査を強化し、潜在的な問題も含めて継続的改善活動を行います。

(4) 現場革新

■受注から出荷までの生産システムを革新し、市場の要求にあった生産態勢にするとともに生産効率を改善します。

■顧客の満足が得られる生産現場を実現するため、以下の基本的事項を再度徹底し、品質向上と収率向上に努めます。

- ・5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）活動を、品質管理の基盤として定着させます。

- ・P・D・C・A、S（Standard）・D・C・Aサイクルを完全遂行し標準作業を徹底します。

- ・生産現場全体の技能レベルを向上させる活動を強化します。

■工程品質管理を徹底的に実行することで、より安定な品質と収率を確保します。

■設備の維持管理は重要な品質要素になりますので、体系的な活動として確立し実行していきます。

(5) 人材開発・育成

会社が求める人材開発を確実に実行するため、階層別／職種別の教育体制を確立し、実行していきます。

4) 数値目標（連結）

（単位：百万円）

	2008年3月期 予 想	2009年3月期 計 画	2010年3月期 計 画	2011年3月期 計 画
売 上 高	8,455	9,000	9,700	10,500
営 業 利 益	△ 429	200	400	600

以 上